

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立名草小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第1学年からの英会話学習の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっている。
- ・英会話学習の実施によって、ALTの出身地に興味を示すなど、外国語や外国の文化に対する興味・関心が高まっている。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

- ・令和5年度のアンケートの「英会話学習の授業で楽しく勉強していますか。」という質問に対し、ほとんどの児童が「はい」と答えている。

<保護者>

- 令和5年度の保護者アンケートの「英会話学習は、お子さんが英語に慣れ親しむことにつながっている。」に「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた保護者が93%であった。

3. 実施の効果及び課題

- 低学年から取り入れているためか、英会話学習に対する抵抗感は少ない。また、得意・不得意や、好き・嫌い等の意識はなく、英会話学習を楽しみにして、楽しく活動している児童が多い。
- 発音が分かり、コミュニケーションがとれる児童が増えている。また、他教科で英語を使おうとする様子もある。
- 3年生になり始まった外国語活動の授業の様子から、低学年から高学年へと段階を踏んでの指導が生きていると感じる。
- 英会話学習と外国語活動及び外国語との関連が明確でない。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- 語学のため、使用頻度を増やすことが一番と思うが、時間は限られているので、授業以外でのALT、EAAとの関わりを充実させられるような手立てを工夫する。
- 外国語活動及び外国語との違いや関連性をより明確にし、共通理解を図る。
- ALT、EAAとの打合せ時間を確保する。また、使用する教材や資料について、学校間で協力して使用できる物を共有できるよう働きかける。